

眼球運動トレーニング 社会実装プロジェクト

視力ではなく、眼球の運動の問題で「読み」や球技が苦手な児童が多いことや、トレーニングでその問題が改善されることが報告されている。本研究では、信頼できるビッグデータと魅力的なコンテンツを活用した新しい「見るトレ」の、社会への本格的な普及展開を狙う。

代表者

関西学院大学工学部
山本倫也

連絡先

michiya.yamamoto@kwansei.ac.jp



研究室 HP



大阪府和泉市立国府小学校での
システム利用の様子

SOLUTION | 社会課題解決方法

「見るトレ」が当たり前になる 社会をめざして

眼球運動トレーニングはこれまで、海外で資格を取得した専門家を中心に、アナログ的、ノウハウ依存のカたちで行われてきた。客観的な指標の導入と、楽しみながらトレーニングできるコンテンツにより、問題を抱える児童に広くアプローチする。



▲従来のトレーニング

▲「見るトレ」

ORIGINALITY | 独自性・開発への想い

眼球運動トレーニングの デジタル化・AI化

国内大手ナックイメージテクノロジー社の視線計測装置 EMR ACTUS に導入された視線計測技術等をベースとする、眼球運動トレーニングのデジタル化、AI化がコア技術である。小学校や放課後等デイサービスでの実証評価など、現場での実践導入を最優先に研究開発している。



▲初期型の視線計測システム

VISION | 夢・展望・事業イメージ

オープンイノベーションで、問題を抱える 子どもたちにトレーニングの機会を

学校や保健センター、トレーニング施設への B to B リース、家庭への B to C サブスクリプションなどのサービスを予定している。子ども向けの新しいコンテンツ開発、新しいヘルスケアなど、様々な業種とコラボレーションし、オープンイノベーションとして普及展開を進めたい。

